

【Meeting Report】

## 欧州における補完代替医療学研究の現状

—12<sup>th</sup> Annual Symposium on Complementary Health Care を中心に

### Current State of CAM Research in Europe

—Through Participation in 12<sup>th</sup> Annual Symposium on Complementary Health Care

亀井 勉<sup>1,2,\*</sup>, 村田幸治<sup>2</sup>

Tsutomu KAMEI<sup>1,2,\*</sup>, Kohji MURATA<sup>2</sup>

<sup>1</sup>財団法人島根難病研究所

<sup>2</sup>金沢大学大学院医学系研究科

【キーワード】 補完的ヘルスケア定例シンポジウム, 欧州, 禅

**Key words:** Annual Symposium on Complementary Health Care, Europe, Zen

サプリメント（健康食品）の先進国ともいえる米国においては、医療費の抑制策としてFDA（食品医薬品局）の方針転換がうち出された。それは、安全性の高い食品ならば、臨床試験でその効能を積極的に調べてみようというものである。さらに、この国策が近年の補完代替医療（CAM）の研究の広まりの大きな原動力になっているともいわれている。また、新薬開発を行なってきた製薬企業も、比較的少ない開発費で済む健康食品の生産と販売に積極的に参入している現状も見逃せない。

一方、欧州においては、イギリスをはじめ、予防医学に力点を移してきている国々が多く、米国と比較すると伝統医学やハーブ（生薬）などに対する理解はより深いものになっている。また、欧州におけるCAM研究は、近年着実に進んでいるようである。

さる2005年9月19日～21日に、第12回補完的ヘルスケア定例シンポジウム（12<sup>th</sup> Annual Symposium on Complementary Health Care; 会長はProfessor Edzard Ernst, Director, Complementary Medicine, Peninsula Medical School, Universities of Exeter and Plymouth, UK）が、イギリスのエクセターで開催され、われわれも参加する機会があったので概略を述べたい。この一連のシンポジウムでは、以前から鍼治療、漢方療法、ホメオパシー、マニユ

アルセラピーなどCAMの臨床研究がテーマとして取り上げられてきた。今回のシンポジウムでは、プレシンポジウムワークショップ2題、基調講演1題、記念講演1題と一般口演とポスター発表を合わせて約90題の発表がみられ、参加者はおよそ300名であった。

CAMの研究現況とこの定例シンポジウムの理念については以下のように述べられている<sup>1)</sup>。「この一連のシンポジウムの目的は、新しいCAMに関する研究の発表とそれに対する批判的議論のための場を提供することによって、より質の高い研究が促されることである。CAMの研究は、過去数年間の間に、かつてないほど活発になってきた。たとえば、われわれがCAMに対する賛否両論の臨床的エビデンスを概説した“CAMデスクトップガイド”という著書を改訂する際には、これはかなりの大作業になるであろうと予想していた。しかし、われわれは、この初版を出版してからわずか5年間の間に研究論文の急激な増加に圧倒されることになった。われわれは、各領域においてある治療法に対する賛否のエビデンスの基盤がよりしっかりしたものになっているかどうかを示す指標として‘重み (weight)’（エビデンスの水準、



村田幸治によるポスター発表の写真

方法論的に質及び量の組み合わせた指標」という概念を用いて検討したところ、この著書の初版発刊時には29の治療法に最大限の「重み」が認められたに過ぎなかったが、第2版発刊時にはそれに該当する治療法の数116にもものぼっていた。われわれは、この定例シンポジウムがCAM研究のさらなる発展に寄与し、CAM分野で、確固としたエビデンスの基盤が得られた領域・治療方法がより増加することに貢献できることを望んでいる。」

今回のシンポジウムの中では、近年の日本文化の欧米への浸透を反映してか、鍼灸以外の日本古来の「癒し」に関連する演題が2題ほどあった。その一つは、「禅(Zen)」の瞑想中に心臓血管系が同期化しやすい、つまり心拍と呼吸が同期しやすいという報告であり<sup>2)</sup>、もう一つは、家族の健康のための「癒し」に関するパイロット研究であった<sup>3)</sup>。前者では9名の欧州人の被験者を対象に得られたデータを主として質的研究法により検討していた。しかし、個人差があると思われる瞑想の深さに相関して同期の程度に違いがあるかどうかといったような考察はなかった。世界的に広がりを見せているCAMでは、このように、東洋の伝統的な精神文化に関連のあるものが比較的多く、その中でも日本に関するものは欧米人の関心を少なからず惹いているようである。しかしながら、その「効果・効能」を欧米で立証していくには、被験者設定に限界があると推測された。今回のシンポジウムを振り返ると、このような東洋的な、あるいは日本の古来の

文化に根ざした「癒し」に関わる医学的研究こそ、その「本場」である日本が、研究環境として最適な国ではないかと感じられた。なお、同様のことは、インド伝承医学の代表格であるヨーガの効果・効能に関する研究についても言えるであろう。

今回のシンポジウムでは、以前と比べて質の高い抄録が多く集まってきており、より多くの発表者に口頭発表の機会を提供することが配慮されていた。その結果、発表は終日並列セッションにて実施されるようになっていた。また、従来はポスター発表者には2分間の簡潔な口頭での発表を求めていたが、2005年からは、適度な時間的余裕を設けて、参加者には事前の空いた時間に自由にポスターを閲覧できるようにし、ポスター・セッション中に発表者と討論する機会が得られるようになった。さらに、このシンポジウムの抄録は、[www.pharmpress.com/fact](http://www.pharmpress.com/fact) から、以前のシンポジウムの抄録も含めて、自由にオンラインで入手できるようなシステムに切り替えられているので、一度御覧になっていただきたい。

さて、このシンポジウムのトピックスと位置づけられた研究を簡単に紹介したい。まず、シンポジウムの基調講演としては、ドイツのミュンヘンの補完医療研究センターの上級研究員である Klaus Linde 氏が、「慢性疼痛のための鍼療法」について発表した。また、記念講演として、オランダの St. Radboud 大学医療センターの臨床薬学教授である Peter AGM de Smet 氏が、「Ethnopharmacological encounters with native arts」と題して、民族薬理学に関する講演をしていた。なお、この講演は Dr. Willmar Schwabe ファーマシューティカルズ社が後援する年次講義の第3回 Varro Tyler 記念講演として行われていた。

さらに、プレシンポジウムワークショップは、(1) サクソン温泉学及び温泉療法研究所所長でありドイツのドレスデン大学物理療法及びリハビリテーション学教授である Karl-Ludwig Resch 氏が座長を務めた「実用的試験(Pragmatic trails)」に関する講演と(2) カナダでカルガリー大学補完医療研究職の Marja Verhoef 氏が座長を務め、国際補完医療研究協会が準備した、「CAMの定性的研究」に関するもの計2題であった。

最後に、今回の定例シンポジウムでは、アジアからの演題は、われわれの予想に反して2年前と比較して激減しており、口頭発表ではサウジアラビアからの1題だけであり、ポスター発表はタイから1題、日本から3題、韓国から1題であった。日本からのポスター発表3題は、われわれに関係したものだけであったので、今後は、日本補完代替医療学会の会員の皆様も、積極的に御参加いただければと思う。

### 参 考 文 献

- 1) Wider B, Ernst E. 12<sup>th</sup> Annual Symposium on Complementary Health Care—Introduction. *Focus on Alternately and Complementary Therapies* 2005; 10: 1–2.
- 2) Bussing A, Matthiessen PF, Cysarz D. Cardiorespiratory synchronization during Zen meditation. *Focus on Alternately and Complementary Therapies* 2005; 10: 10–11.
- 3) Canter PH, Brown LB, Greaves C, et al. Johrei healing for family health—a pilot trial. *Focus on Alternately and Complementary Therapies* 2005; 10: 12.